



特集

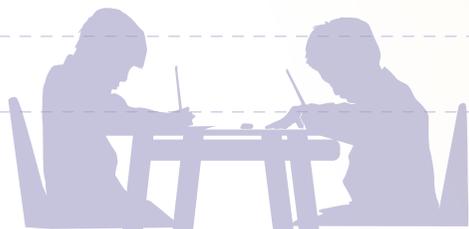
「小6 統一合判」2

中学入試レポート vol. 2

わが子にあった 中高一貫校を 見つけるために！

～学校説明会&見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～

6年生になって、いよいよ本格的な受験勉強に取り組みはじめた受験生の皆さんは、夏休みを前に、さまざまな課題を感じていることだろう。同時に保護者の皆さんは、わが子の受験校を考えていくうえでの大切な時期を迎えた。この6年生の大事な時期に、保護者の皆さんは、お子さんの生活リズムを良い形でサポートしてあげるのと同時に、お子さんにとってベストの受験校選択をしていくためにも、これから先、ぜひ多くの私学を見学に行ってほしい。とくに今年は、間近に迫った「2020年大学入試改革」とその先の社会の変化を見据えて、“日本の学校教育を変える”改革が、多くの私学で進行している。変化の激しい21世紀の社会に生きるわが子のために、そうした私学の教育の“進化”にも目を向けていただきたい。



首都圏模試センター

21世紀の教育改革の方向性をリードする 「私立中高一貫校の進化」に注目しよう！

先の4月14日（日）に実施された今年度の新小6「統一合判」第1回の同レポートでは、「2019入試結果から探る、2020年首都圏中学入試展望」と題して、今春の中学入試のトピックと、それらの動向から読み取れる保護者の意識の変化、そして「2020年大学入試改革」に象徴される、今後の日本の教育の変化について言及した。中学受験生の保護者には、こうした動きをすでに意識されている方も多いことだろう。

2016年から今春2019年にかけての4年間、教育と受験の世界では、この「2020年大学入試改革」をめぐる議論がひとつの焦点となってきた。世界トップ200大学と肩を並べるための、「SGU（スーパーグローバル大学）」（トップ型13校・グローバル化けん引型24校）の指定や補助金制度、それにつながる「SGH（スーパーグローバルハイスクール）」指定、「日本語IB（国際バカロレア）プログラム」導入などの動きに象徴される“グローバル教育”推進の動き、さらに文部科学省が推進を図る「アクティブラーニング（主体的・能動的な学び）」に関する議論は、この4年間の教育をめぐる話題の中心であった。

注目される2020年度（現在の高校2年生の大学受験時）以降の新たな「大学入試制度」導入の具体的時期や手法については、ほぼ大筋の方向性が示されてきた。まだ現実の実施までには解決すべき課題は多いとはいえ、そのあり方が現在と「変わる」方向に向かうことは間違いない。

何より現在の小学生と保護者にとって大事なことは、①これまでの共通テストであった「大学入試センター試験」が、「大学入学共通テスト」という新たなテストに変わり、そこでは「思考力・判断力・表現力」が問われるようになること、②各大学が行う個別入試では大学の個性化を図り、「主体性・多様性・協働性」や「創造性、独創性、芸術性」までを問う出題がされること、③英語では民間の英語検定のスコアが判定材料として導入されることなどの、極めて大きな変化だ。

英語の民間検定の「大学入学共通テスト」導入

については、2020年度から2023年度までの当初4年間は、現行の英語試験と併用されることが公表されているが、現在の中学1年生が大学入試に挑むのは2024年度、そして現在の小学6年生が大学入試に挑むのは2025年度。つまりその年代以降の小学生はすべて、英語の民間検定導入の完全実施や、新『学習指導要領』導入後の本格的な大学入試改革（第2期改革）の当事者になるということだ。

そしてそうした段階的な入試改革の方向性が明示される以前から、東大や京大で「推薦入試」「特色入試」が導入されていることや、いくつかの国公立大学や私立大学では英語の民間検定のスコアが判定材料にされていること、また今後の入試改革の方向性を先取りして出題そのものを「思考力・判断力・表現力」を問うものに変化させている大学が増えつつあることも見逃せない。つまり「すでに大学入試は変わりつつある」ということだ。

とりわけ「4技能（読む・書く・話す・聞く）」の力を試すために、民間の検定資格試験を導入する英語については、その方向性がほぼ確定し、すでに2016年～2019年の大学入試でも、そうした英語検定を自らの入試に導入する大学が増加し続けている。当初は「導入しない」と公表している東京大学をはじめとした国公立大学も、数年後にはこの流れに同調せざるを得ないのではないだろうか。

そうした動きの延長から、現在の小6のお子さんが大学入試を迎える2025年度には、新たな大学入試制度も6年目を迎え、2020年度の導入初期の状態よりも、かなり進んだものになることは間違いない。

現在の「大学入試センター試験」に変わる新たな2種類の共通テストが、やがては「CBT方式」



大学日今
人校。春
気。午2
！738後0
名入1
も試9
のを年
志新入
願設試
者しは
をた2
を集香
め月
る女2



特集 わが子にあった中高一貫校を見つけるために！

～学校説明会＆見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～



今春2019年入試では2月1日午後11時入試を新設した山陽学園「来春は「探究サイエンス入試」を新設する！」

で実施され、それが「AI（人工知能）採点」されるという方向性や、従来の「教科型」に加えて、教科・科目の枠を超えた思考力・判断力・表現力を評価するための「合教科・科目型」「総合型」の問題を組み合わせた出題がされることなども、その段階までには実現している可能性が十分にある。

また、今回の大学入試改革の狙いでもある「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し成果等を実現するための力を評価する」手法も、現在よりもかなり具体化～実現されることだろう。

そして何より、各大学の「ディプロマポリシー※1」、「カリキュラムポリシー※2」につながる「アドミッションポリシー※3」を反映した個別入試問題では、いわゆる「批判的・創造的思考」までを問うユニークな出題や入試形態が増えてくることが予想できる。

そうした個別入試の出題では、各大学のアドミッションポリシーや、将来の社会で求められる力を反映した「正解がひとつに定まらない問題（＝オープンエンドの問い）」が増えてくるだろう。

そして、今春2019年の中学入試に挑んだ受験生と保護者は、ほぼ4年間にわたって、そうした議論やマスコミ報道の渦中で受験準備をしつつ、志望校を検討してきた学年だった。さらに来春2020年の中学入試に挑もうとしている現在の小6のお子さんと保護者は、その変化の真只中で、この先の大学入試や社会の変化を具体的に見通しつつ、わが子の中高6年間の教育環境（受験～進学先）を探していく必要がある。

そういう保護者の教育と学校選びに関する情報収集のアンテナと見識が「わが子に合った中高一貫校を見つけるための」大きなポイントになるといってもよいだろう。

そして、何より現在の小学生と保護者にとっての本質的な問題は、目先の大学入試制度や入試形態の変更や時期にあるわけではない。

この新たな大学入試制度が導入される目的は、この先のグローバルな世界・社会で生きていくために求められる課題発見・問題解決の力を育てるためであり、その改革のベースにある理念は、従来の高校教育や大学入試（＝日本の教育）で重視されてきた知識習得型の学力観・教育観そのものを大きく変革しようとするものでもある。

だからこそ、この日本の教育の変化の節目に、「21世紀型教育（次世代型教育）」や「世界標準（グローバル・スタンダード）の教育」ともいわれる新たな学びのスタイルや探究型のプログラム、「STEAM教育※4」が注目され、いま多くの私立中高一貫校が一斉に取り組み始めている。

そして、私立中高一貫校のなかには、この方向性をすでにリードして、公立学校の数歩先の歩みを進めている「21世紀型教育」先進校がいくつもある。

そうした教育の新たなムーブメントも各ご家庭で意識しながら、保護者が大切にしている価値観に合った学校、そして何より「わが子が中高6年間、生き生きと楽しく学べて、将来に向けた学力も身につけ、その過程でかけがいのない自分の価値と可能性に気づき、自己肯定感も高められる私学」を探していけるとよいだろう。そのためにこそ、最新の学校情報・入試情報が必要になるのである。

2020年にも「私立中入試の多様化」は進み、「思考・表現・発想」力を問う入試形態が増加。

2016年から今春2019年にかけての4年間、首都圏中学入試のシーズンに、新聞やTVなどのマスコミが最も注目したのが「私立中入試の多様化」の動きであった。

従来から主流であった国・算・社・理の4科目や国・算の2科目による入試に加え、今春の私立中学入試では、新たな入試科目や入試形態を導入する私立中がますます増加し、多様化の動きが拡大されたのである。

この動きは、すでに首都圏（東京・神奈川・千葉

※1 ディプロマ・ポリシー＝卒業認定・学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の明確化）

※2 カリキュラム・ポリシー＝教育課程編成・実施の方針（教育内容・方法、学修成果の評価方法の明確化）

※3 アドミッション・ポリシー＝入学者受入れの方針（入学者に求める学力の明確化、具体的な入学者選抜方法の明示）

※4 Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）を統合的に学習する「STEM教育」に、Art（芸術）を加えて提唱された教育手法。

最新入試情報

首都圏エリアの公立中高一貫校の動きと公共交通機関の変化〈抜粋〉

茨城や埼玉で広がる「中高一貫化」の動きと、通学エリア・沿線を広げる交通機関の変化

----- 公立中高一貫校の動き -----

■茨城県立中高一貫校の動き（茨城県）

「県立高校学校改革プラン」の推進と中高一貫教育校の開設に向けて体制を整える茨城県では、2020年太田第一、鹿島、下館第一、鉾田第一、竜ヶ崎第一、2021年水戸第一、土浦第一、勝田、2022年水海道第一、下妻第一にそれぞれ中高一貫教育校を設置する。勝田は中等教育学校だが、その他9校は高校入学者枠が残る併設型。

■川口市立高校の中高一貫校化は2021年（埼玉県川口市）

2018年4月に市立高等学校3校（川口総合高等学校、川口高等学校、県陽高等学校）を再編・統合して開校した川口市立高等学校は、2021年に中高一貫校となる。

----- 交通機関の新設・拡充・延伸 -----

■高輪ゲートウェイ駅、2020年春開業

田町一品川間の新駅・高輪ゲートウェイ駅は2020年春に暫定開業。周辺の街づくりも進んでおり、オフィスや商業施設、住宅などが入る、合わせて6棟の超高層ビル、広場などができる。高輪ゲートウェイ駅周辺の本格的な街開きは2024年予定。同年泉岳寺駅拡張工事も終了予定。



2020年春の山手線新駅「高輪ゲートウェイ駅」開業により、最寄りの高輪中の人気動向も変化するか？

■相鉄、2019年にJR相互直通運転開始、2022年には東急相互直通路線開業

相鉄は2019年度下期には、JR線との相互直通運転となる。今後、相鉄・東急の相互直通路線「新横浜線」は、東急線との相互直通運転となる新横浜駅、新綱島駅（新駅）、日吉駅までの区間を2022年度下期に開業する。

■横浜市営地下鉄延伸、事業化前進

横浜市営地下鉄ブルーラインのあざみ野駅（横浜市）から新百合ヶ丘駅（川崎市）までの延伸事業化に関して、横浜市と川崎市が覚書を交わした（2019年1月）。ルート最終決定は2020年3月。

・埼玉・茨城）では25校が設立された公立中高一貫校の受験生（約1万8千名）が、少しでも私立中の併願がしやすいようにという狙いで私立中でも導入された「適性検査型入試」の増加がきっかけでもあった。

さらにそれは、今後の小学生（＝中学受験生）すべてが当事者となる、今後の「大学入試改革」に象徴される日本の教育の変化に柔軟に対応し、新たな大学入試と将来の社会で求められる力を育てる教育をめざす私立中高一貫校の先見性と柔軟な教育姿勢を反映したのもであった。

中高6年間の入り口にあたる中学入試でも「思考力や表現力」を問いたいという私立中側の意図を反映した受験生・保護者に向けたメッセージが、この3～4年で急速に増加した多様な入試形態なのだと考えておくべきだろう。

その新たな入試形態・科目が、先の「適性検査型（公立一貫校対応型）入試」に加え、「英語（選択）入試」、「思考力入試」、「記述・論述型入試」「総合（合科）型入試」「自己アピール（プレゼンテーション型）入試」といった多様な「新タイプ入試」だった。さらには受験生の学力特性（強み）を生かして受験できる「得意科目選択型入試」や「推薦入試」などの入試形態も増加しつつある。

そして今春2019年入試では、首都圏で「125校が英語（選択）入試を実施」、「147校が適性検査（思考力入試などを含む）型入試」を実施するまでに至っている。

さら到来春2020年入試に向けては、16ページのコラムでもご紹介したように、さらに20校以上（5月末現在調べ）が、新たな入試の導入を公表～検討している。

そして、こうした新たな入試形態で問われる力や小学生の資質は、先にご紹介した「21世紀型教育（次世代型教育）」や「世界標準（グローバル・スタンダード）の教育」、あるいは「探究型」授業、「学び合い」といった新たな学びのスタイルとフィットする側面がある。

そうしたことに気づき、中学入試段階では未完であっても、将来的には無限の可能性を持つ小学生の新たな資質や才能、自ら学び進む意志力などを持つ多様な子どもたちを迎え入れようと決断した先進的な私学が、自らの教育改革も行うこの期に合わせて、これまでとは違った“多様な評価軸”で小学生の力を測る新タイプ入試を次々に新設するようになったのである。

こうした動きは、たとえば小6になってからなど、比較的遅い時期から中学受験や私立中高一



特集 わが子にあった中高一貫校を見つけるために！

～学校説明会&見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～

学校説明会では、こんなことがわかる！

～何より私学の熱意と将来性を確かめよう～

これから夏休みや秋にかけて、私立・国立中高一貫校では、学校説明会やオープン・キャンパス（学校見学会）、体験授業など、受験生と保護者が「学校を知る（見る）」ことができる様々な行事が行われる。各校で開催される文化祭、体育祭も、9月～11月にかけてがピークとなる。

わが子に合った学校を選び出すために、こういった学校見学の機会には、できるだけ数多く足を運んでいただきたい。それが「学校を選ぶ目」を確かなものにする方法のひとつだからだ。

そのなかでも、「学校説明会」は、やはり各学校の考え方や、具体的な指導内容を知るための良い機会だ。ここでは簡単にそのポイントをお伝えしておこう。

●私学の「説明会」で話される4つの柱

1. 「教育理念・教育方針」と「目標・将来展望」

～保護者の考えや期待と合うかどうか？

2. 「中高6年間の学習指導・カリキュラム」

～わが子の力をどう伸ばしてくれるか？

3. 「入試状況・出題傾向」

～どういう入試が行われるのか、またそこではどういう力が問われるのか？

4. 「進路指導と進路状況（進学実績）」

～将来の進路に向けての指導内容・体制は？ またこれまでの進学実績と今後の期待値・目標値は？そして、すでに間近に迫った「2020年大学入試改革」への対応をどのように考えているのかも注目すべきだろう。

私学の説明会では、一般的にこの4つを軸に話がある。いずれも各校の教育内容を見極めるうえでは非常に大切なこと。好印象を受けたことや疑問に思ったことは、しっかりメモに残して、最後に受験校を絞り込むときの参考にしよう。

そして、これらの話のなかで、いま注目したいのが、先に本文でも述べたような「2020年大学入試改革」への対応と、その先、現在の小学生が社会に出る新たな時代（2030年以降）の社会を各私学がどう読み解き、この日本の教育が変わる節目に、将来に向けてどういう力を生徒に身につかせ、育てようとしているのかを確かめることだ。

合わせて意識しておきたいのは、その話の内容や先生方の姿勢から、その学校の「熱意」や“将来性”を感じ取ることである。この点は、世間の評価や噂話からでは



今春2月1日に行なわれた麻布中入試風景。個性豊かな受験生を見送る保護者。

なく、やはり「親が自分自身で確かめる」ことが大切だ。

また、これらの説明のあとに、「質疑応答・個別相談」や、「校内見学・授業見学」ができるケースも多い。わからないことはその場で遠慮なく質問してもいいし、あるいは後日、学校や塾に問い合わせて確認してかまわない。

また、こういった学校見学の機会を通じて、次のような点もチェックしておこう。

1. 現在の小学生が社会に出る2030年以降の世の中で必要とされる力と、その力を育てる教育について、その学校の先生方がビジョンや先見性を持っているかどうか？

2. 受付や先生の対応は親切か？

（学校の体質や先生方の熱意を確認！）

3. 在校生の服装や言動は？

（学校の雰囲気、生活指導、しつけを確認！）

4. 施設や設備の充実度は？

（華美でなくとも、生徒本位に工夫された環境かどうか？）

5. 防災対策（耐震等）や被災時のための備えは？

（いざというときの安全性を確認！）

6. 学校までの利用交通機関と周辺環境は？

（利便性、安全性を確認！）

この数年は、先の震災後の各校の防災、安全対策がどのようになっているかも、保護者にとって確かめたいポイントのひとつになっている。

さらには「21世紀型スキル」ともいわれる「新たな時代に求められる力」を育てていくために、各私学がどのような授業スタイルや教育メソッド、教育プログラムを導入し、ICT活用をしているのかも注目すべき点だろう。

貫校への進学を志した小学生と保護者にとって、新たな進路の選択肢が増えたという意味で、広く歓迎されることになった。

いずれにしても、こうした様々な動きのなかで、わが子にとっての最適な進路（学校）を選び抜く

ポイントとして、この「日本の教育が変わる」節目に、各私学がどのような教育をめざし、わが子が将来の社会でより良く生きていくための力を、どのように育ててくれるのかという点に着目すべきだろう。

最新入試情報

2020年入試での入試要項変更ほか〈抜粋〉

来春2020年入試でも加速的に増加する入試日程・科目の変更

----- 日程・科目・定員 -----

■**暁星、午後入試導入で複数回化**

2月3日は午後入試とし、2日午前の日程を新たに設ける。第1回2月2日午前(約65名。国語・算数・理科・社会)、第2回2月3日午後(約10名。国語・算数)。

■**本郷、2021年高校募集停止。2020年中学募集定員増**

2021年より高校募集停止(現在の募集定員84名)。それに先駆けて2020年入試では、中学募集定員を現行の240名6クラスから280名7クラスに増。定員は第1回80名→100名、第2回120名→140名、第3回40名となる。

■**大妻中野、算数入試日程等変更**

2月1日午後に行っていた算数入試を2日午後に移動。また60分60点を60分100点に変更する。

■**カリタス女子、2日午後は選択2科に**

2月2日午後の新3科型入試を、国語・算数、国語・理科、国語・英語からの選択による2科入試に変更。論理的思考力を求めるため国語は必修とし、もう1科目は受験生が得意科目を活かせるように選択制とする。

■**共立女子、定員比変更**

帰国生入試(12月1日)20名→25名、英語インタラクティブ入試(2月3日午前)20名→15名に変更。

■**恵泉女学園、2日(日)も午後入試に**

日曜日にあたる2月2日の第2回入試を、午前から午後入試に変更。科目も4科から2科4科選択に変更する。1日午後第1回定員は50→80名、2日午後の第2回は-30(100→70名)。第3回は30名のまま。

■**東洋英和女学院、日程を3日に戻す**

2019年は2月3日が日曜日にあつたため1日B日程を2日へ移したが、2020年はA日程2月1日、B日程2月3日に戻す。1日の帰国生入試は変更なし。

■**函館白百合、首都圏入試は実施せず**

函館白百合は3月、2020年の首都圏入試を実施しないことを発表。現地での募集に一本化する。

■**聖園女学院、5日に日程追加**

2月5日に5次(2科、定員10名)を設置。また2月2日午後を、英語入試(英語・算数、10名)と3次(2科、15名)から、3次(国語・算数・英語から2科目選択、20名)に変更する。英検4級以上取得者は、英語免除。

■**青山学院、日曜日避ける日程変更**

従来の入試日程である2月2日が日曜日にあたる2020年。青山学院は入試日程を3日(月)に変更。詳細は9月中旬、同校ウェブサイトでご公表。

■**国学院久我山、2月5日はSTクラス入試に変更**

2月5日の入試をST入試に変更。これにより、男子一般クラス、女子CCクラス募集は2回(第1回2月1日午後、第2回2月2日。ともに午前)、STクラス募集は男女各3回(第1回2月1日午後、第2回3日午後、第3回5日午前)となる。

■**桐蔭学園中等、午後入試、算数選抜を1日午後に変更**

午後入試を2月2日午後から2月1日午後に変更。また1日午後には、3日実施だった算数選抜入試も移動し、1日午後入試は、2科(国語・算数が英語・算数のいずれか)または算数選抜となる。定員は男女別に変更。

■**東京農大第一、2日午後に入試の受験型追加**

2月2日午後入試の科目に、算数・理科2科に算数・国語の選択肢も追加。算数は50分150点、理科と国語は40分100点で、それぞれ250点満点とし受験者比率と結果に応じて合格者の比率を決定。

■**日大藤沢、2021年(併設小内進初年度)から中学募集定員変更**



向が注目される!
 暁星中は来春2020年入試では、従来の2月3日の4科入試を2月2日に移行。さらに2月3日午後2科入試を新設。今後の入試日程が注目される!

併設小学校からの内進生を迎えるにあたり、2021年度入学者(現5年生受験時)から、中学募集定員を変更。計120名 第1回70名(男女各35)・第2回50名(男女各25)→計60名 第1回40名(男女各20)・第2回20名(男女各10)(参考:小学校1学年男女72名。36名×2クラス)

■**文化学園大学杉並、算数入試増設**

2月2日午後に行った算数1科入試の日程を、2月3日午後にも設定(2科または英語→算数または英語への変更)し、2回とする。ただし受験は1回のみ。なお定員は1日50名→40名、2日50名→40名、3日40名→20名、4日若干名。

■**筑波大学附属、定員変更。2021年には科目変更**

2020年度入試で、定員を約65名→約80名に変更。なお、2021年には、8教科(全教科)から4科(国算社理)に変更。音楽、図工、家庭、体育は行わない。

----- 共学化・体制変更・校名変更・開校 -----

■**大妻多摩、2020年度入学生より「国際進学クラス」新設**

2020年度入学生より、中2からの「国際進学クラス」を新設。中1段階では3グループ分けの英語習熟度別クラス。中1修了時の英語成績や英語外部検定などの条件をクリアしたものと、国際進学入試で入学したもの(英語成績条件あり)とで、国際進学クラスを構成する。

■**国本女子、カナダAlberta州教育省と提携**

カナダ・アルバータ州教育省と提携。ダブルディプロマコースを設置し、Kunimoto Alberta International Schoolでの中高6年グローバル貴教育校をめざす。

■**桜美林、高校を3コース制に**

桜美林高等学校は、国公立コースを新設し、特別進学コース、進学コースと合わせて3コース制となる。

■**小野学園、共学化。同時に「品川翔英中学・高等学校」と校名変更**

小野学園女子中学・高等学校は2020年4月から共学に。同時に校名を「品川翔英中学・高等学校」と変更。中学では男女40名(4科型で30名・適性検査型で10名)を募集予定。

■**かえつ有明、完全共学化**

かえつ有明は2013年以来、中学段階では男女別学教育を行ってきたが、2020年度中学入学生より中高一貫6年間の男女共学となる。

■**聖ヨゼフ学園、共学化**

聖ヨゼフ学園は、2020年より共学化。同小学校では国際バカロレア(IB)初等教育プログラムを導入しており、中高にはMYPを導入する。2019年度の候補校認定、2022年度への正式認定に向けて着々と準備進行中。



特集 わが子にあった中高一貫校を見つけるために！

～学校説明会&見学会のポイントと、夏休みの上手な過ごし方！～

最新入試情報

2020年入試で新設～導入される新タイプ入試〈抜粋〉

来春2020年入試でも加速的に増加する“私立中入試の多様化”最新情報そのほか

加速する入試の多様化。すでに15校以上が新たなタイプの入試を新設～導入へ！
来春2020年入試から新設・導入される新たな入試（6/5現在・首都圏模試センター調べ）は下記のようにになっている。今後さらに増える可能性があり、注目しておく必要がある。

【新設／新タイプ入試】（6/5現在16校）

■跡見学園、2日午後に関語重視型入試を新設

2月2日午後の特待入試第2回を国語重視型入試とする。2科で受験、合格判定にあたって国語を重視するというもの（国語1科のみの得点と、国語・算数2科の合計点との両方を用いる。合格者の4割程度は国語1科のみの得点によって決定）。またクラス・Pクラス別の募集は解消。

■大妻多摩、【総合進学入試】【国際進学入試】開始

2020年度入学生より「国際進学クラス」を新設。これに伴い入試は「総合進学入試」「国際進学入試」とする。総合進学入試は7日間で約110名募集。国際進学入試は英語を導入する入試で4日程、30名募集。

■函嶺白百合、科目変更（新タイプ入試導入等）

第1回（2月1日）は2科4科選択→2科。第2回（1日午後）は2科+志望シート→国語・算数・英語・思考力テストから1科選択。第3回（2日）は2科→自己アピール型入試。第4回（4日→3日）は総合・作文または英語・作文→国語・算数・英語から1科目選択。

■啓明学園、1日午後に関数特待入試新設

2月1日午後に関数特待入試を新設。男女10名募集。算数1科で、得点率85%で特待生に認定。入学手続きは2月10日まで。

■共栄学園、1日午後に関語または算数の1教科4技能入試を実施

2月1日午後の特待選抜入試を、2科4科選択から、国語または算数の1教科4技能入試に変更する。それぞれ基礎試験20分（読む・書く）、リスニング（聞く）。その後、プレゼンテーション（話す）という内容。

■湘南白百合学園、1日午後に関数入試を新設し2回入試（一般）に

2月1日午後に関数1科入試を新設し一般入試は2回に。2日（第2回入試）は4科に加え、国語・算数+英語資格（英語資格のグレードを得点化し2科の得点と合算して判定）を追加。さらに一般入試の面接を廃止。出願はWEB出願に一本化する。

■女子美術大学付属、自己表現入試は「記述」に変更

2月2日午後の女子美自己表現入試の「作文」（テーマについて想像したことを書く。構想20分・作文40分/100点。表現力・内容を重視）を「記述」（40分/100点。思考力・判断力・表現力を見る）に変更。面接あり。

■清泉女学院、5日にアカデミックポテンシャル入試を新設

2月5日に思考力・表現力・総合力を測る試験（60分）で実施する「アカデミックポテンシャル入試」を新設。定員は10名。併設小学校からの内進生数が少ないため、中学募集増。

また国語・算数を5分延長（45分→50分）する（難度は変えず）。またグローバル入試（2月3日午後）の難度を、英検準2級～2級から2級程度に変更する。

■田園調布学園、2月1日午後に関数入試を新設

2月1日に算数1教科入試を実施。計算+思考力や表現力、文章の読解力も見られる問題にしていきたい意向。また午前入試の面接は廃止し、入学予定者（入学金納入者）に対して入学前面談を2月10日以降に実施する。理科と社会の試験時間をそれぞれ10分延長（30分→40分）。5月17日にサンプル問題をHPに掲載。

■日大豊山女子、英語インタビュー型入試・2科選択入試を導入

従来の「2科4科選択」「適性検査型」「思考力型（プレゼン型）」に加え、「海外帰国女子入試」、2月2日午前に「英語インタビュー型入試」（英語を用い



田園調布中は来春2020年入試で新設する。2月1日午後に関数1科入試を新

てのコミュニケーション力を見る面接試験。受験資格：英検3級以上取得、またはそれに準ずる能力を有するもの）と「2科選択型」（国算社理から2科目選択。試験開始後、その場で選択。2科で90分）の3つの入試を新規に導入。

■富士見、2日午後に関数1科入試

2月2日午後に関数1科入試を実施。実施と日時のみ決定で詳細は未定。

■三輪田学園、英検利用入試を導入

2月2日の第2回に、英検利用入試を導入。英検の資格点と国語または算数の得点の高い方を判定に用いるというもの。2科4科選択40名、英検利用10名募集。入学後は英語の取り出し授業、習熟度別授業を実施。また3日の第3回は、4科から2科4科選択に変更。

■山脇学園、探究サイエンス入試を新設

2月2日午後に関数1科入試を新設。「一般入試（4科）」と「英語入試」（1日、2日、4日各午前）、「国・算1科午後入試」（1日午後）に加え、「探究サイエンス入試」（2日午後。理科30分と探究課題60分。定員10名）を実施する。課題探究は、実験の組み立てと実施、情報の収集と分析、考察の表現、各プロセスや成果から受験生のポテンシャルを評価。チャレンジ課題を6月に発表。

■東京農大第三、特待入試に科目追加

1月10日午後の第2回特待入試の「総合理科」「言葉力」に加え、新たな入試科目を追加。名称は未定だが、グローバル教育を踏まえた内容とする。

■東洋大牛久、適性検査型、英語コミュニケーションスキル型、総合型入試を導入。日程増

専願1回、一般等6回計7回入試から、11月と2月にも入試日程を新設し、専願1回、一般等6回計7回入試に。11月24日適性検査型、11月30日英語コミュニケーションスキル、12月8日専願（4科）、1月5日第1回（4科）、1月18日第2回（4科）、1月18日午後英語コミュニケーションスキル、2月8日午後総合型。定員は専願30名、一般等30名。英語コミュニケーションスキル入試は、英語リスニング、英語スピーキング、日本語作文で実施。

■宝山理数インター、新4科特別総合入試、読書プレゼン入試を設定（予定）

2月1日午後の新4科入試（4科。全科目共通のテーマで出題）を、「新4科特別総合入試」（4科総合問題。60分100点）とする。

また新たに「読書プレゼン入試」（定員10名）を設定（2月1日午後または4日午後）。1日午前第1回4科入試は15名→10名募集。またAAA（世界標準）入試10名→5名、グローバル入試5名→10名に見直し。

■お茶の水女子大学附属、2021年に科目変更

2021年から、従来の4科入試を変更し、「入学検定：検査Ⅰ、検査Ⅱ、検査Ⅲ」を導入することを発表し、この新入試についての説明会を昨年8月に実施した。今年度の説明会日時は未定。

6年生にとっての、夏休みの上手な過ごし方！

～実現が可能な計画をつくり、自分が学習してきたことを振り返りながら前に進む～

●夏休みの課題や学習計画をつくるときに！

夏休みは、トータルすると40日間もまとまった勉強時間がとれる大切な時期。中学受験に成功した先輩たちの多くが、あとでその時期のことを振り返って、「よく頑張ったなあ…」とか「あんなに勉強した時期はほかになかった！」と口にするように、この夏休みの過ごし方や努力が、大きな意味を持つ。

そうしたなかで、上手な生活（＝受験勉強）のリズムをつくるコツは、なるべく「無理な計画を立てない」こと。あまり意気込んで、「あれも、これも…」と課題を増やし過ぎては、かえって逆効果。手を広げ過ぎず、実現可能な課題に順位づけをして、ひとつずつ、しっかりと取り組んでいく姿勢を大事にすることだ。

夏休みは、それまでに学習してきた知識や考える技法を使って問題演習に取り組むなど、まとまった時間が、そうした力を定着させるために使える貴重な時期。だからこそ、焦らず、欲張らず、実現可能な計画を立てて、毎日少し達成感を感じられるような学習リズムで過ごすことができると良いだろう。

ただ、意識しておきたいのは、単に「がんばる」とか「成績をあげる」といった意気込みだけでなく、どういう課題に、どのように取り組むのか、できるだけ具体的な目標を立てること。

また、そうした学習計画は、完璧にこなさなければいけないものではなく、そのときどきの状況によって見直しをして、変えていってもいいものと考えておくとよい。何よりこの夏休みの親の大事な役割は、子ども自身が、やる気や日々の達成感を少しずつでも自分で感じられるように接してあげることだろう。

一方で夏休みは、ふだんの学校生活ではできない自然体験や家族と一緒に過ごす時間が取れる大切な時期でもある。そうした体験はお子さんにとってもリフレッシュ効果も大きいので、うまく学習との切り替えとメリハリをつけられるよう親子で計画できるとよいだろう。

●塾での夏期講習で力を伸ばすには？

塾での6年生の夏期講習は、ある程度長い日数や時間をかけて、それまでに学習してきたことを、さまざまな演習問題に取り組むことを通して、自分で「使える力」として定着させることを狙いに行っているケースがほとんど。それだけに、夏期講習の開始までに、自分が苦手なところ、不得意なことは何かを明らかにしておきたい。そして、塾の夏期講習のテキストや資料を見て、こ

の夏の間、いつ、どのような分野・単元を学習するのか、あらかじめつかんでおく。そうすることで、自分の課題に沿った努力目標や、がんばるべきポイントもわかってくる。

次に、夏期講習の授業では、できれば前日までに、今回はどの単元を学ぶのかを確認したうえで、授業に臨めるとよいだろう。そして、これまでにその単元や範囲を学んだテキストやノートを見直して、自分が学んだことを思い起こすことができれば準備は万端だ。

それは「予習」とは違って、これまでの自分の学びを振り返って、新たな課題に取り組む気持ちの準備を整えること。自分が学習で身につけてきたことや、まだ足りないことを、自分自身の課題として見つけることができるのも、長い夏休みならではのメリットのひとつだ。

また、夏休みの講習は、多くの場合、問題演習が中心になるために、子どもたちは、自分の解答が「マルか、バツか？」ということに気をとられがち。しかし、大切なのは、そうした問題への取り組みを通して、自分が「どのように考えたのか」、「なぜ、そういう考え方（解き方）を選んだのか」を確かめておくこと。それが基礎・基本を確実なものにするために最も有効な学習方法だと考えておくとよいだろう。

●首都圏模試「思考コード」と「思考スキル」を活用して力を伸ばそう？

また、首都圏模試「統一合判」の受験生ならば、毎回の「解答と解説」に掲載されている、各問題が求める力の領域を示した「思考コード」と、それを解くために必要な力を示した「思考スキル」を、十分に活用して学習に取り組むことをお勧めしたい。それが、この夏以降「入試問題を解く力」を高めるためにとても有効な学習方法だと考えておくとよいだろう。

変換操作	全体関係	変容 3	ザビエルがしたこととして正しい選択肢をすべて選び年代の古い順に並べなさい。 A3	キリスト教の日本伝来は、当時の日本にどのような影響を及ぼしたのか、200字以内で説明しなさい。	もしあなたが、ザビエルのように知らない土地に行つて、その土地の人々に何かを広めようとする場合、どのようなことをしますか、600字以内で答えなさい。
複雑操作	カテゴリクス	複雑 2	ザビエルがしたこととして正しい選択肢をすべて選びなさい。 A2	キリスト教を容認した大名を一人あげ、この大名が行ったこと、その目的を100字以内で説明しなさい。	もしあなたが、ザビエルだとしたら、布教のために何をしますか、具体的な模範と共に400字以内で説明しなさい。
手順操作	単純関係	単純 1	(ザビエルの写真を見て)この人物の名前を答えなさい。 A1	ザビエルが日本に来た目的は何ですか？50字以内で書きなさい。 B1	もしあなたが、ザビエルの布教活動をサポートするとしたら、ザビエルに対してどのようなサポートをしますか、200字以内で説明しなさい。
(数)(言語)			A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造



解答と解説冊子『ブレイク』に紹介されている首都圏模試センターの「思考コード」と「思考スキル」を参考にして、模試の振り返りにも生かしてほしい！